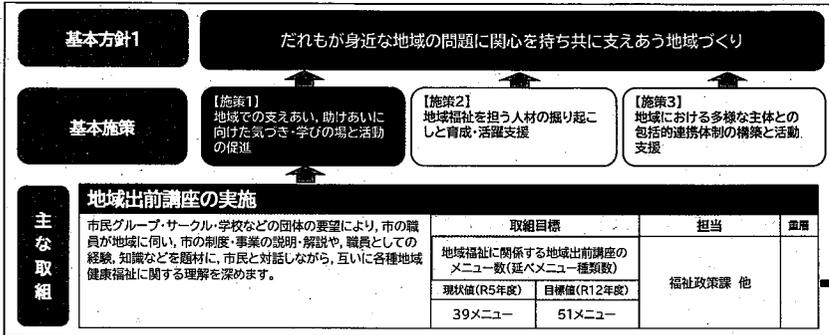


第5期計画 基本施策の実現に向けた主な取組 進捗シート



方針1-施策1 地域での支えあい、助けあいに向けた気づき・学びの場と活動の促進
 (基本施策1の方向性)
 地域住民が地域生活課題に気づき、学びを深める場を提供するとともに、住民同士のつながりを育み、交流や居場所づくりを推進します。これにより、地域での支えあいや助けあいの意識を醸成し、住民参加による地域活動の活性化に向けた取組を強化していきます。

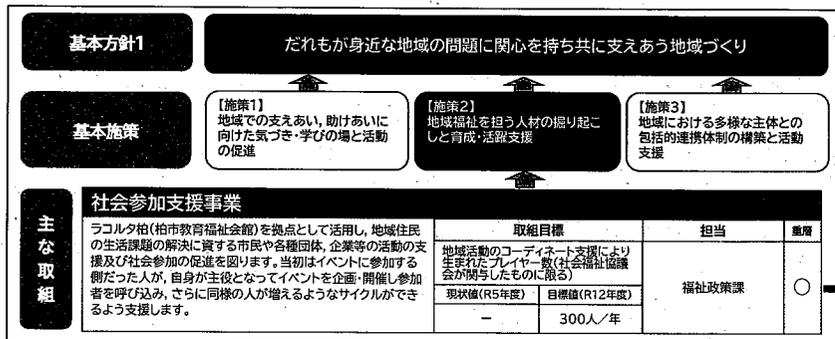
| 事業名 | 現状値 (R5) | 実績値 | | | | | | 目標値 (R12) |
|-----------|----------|-----|----|----|-----|-----|-----|-----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 地域出前講座の実施 | 39 | 36 | | | | | | 51 |

【施策1】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | |
|----|---|---|--|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域福祉に関する課題に興味を持つ 地域出前講座に参加してみようと思う 自分のできる地域活動をしたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域出前講座に参加ようになる 家族や友人に講座内容を伝えたり、関連する情報収集を自ら行う 自分のできる地域活動に参加するようになる | 地域の健康福祉への関心が高まり、多様な主体の社会参加が促進され、市民、地域、市が課題・目標を共有し、地域のコミュニティとネットワークが強化される |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 個人や地域の結び付きの必要性を感じる 地域でできる福祉活動を企画したいと思う 地域福祉に関する活動について、もっと多くの人に知ってもらいたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 講座を通じて多様な人との対話を重ね、地域に必要な活動の周知・啓発をする 自分たちの地域をより住みよいまちにしていこうと地域活動を実践する | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 常に地域の最新の状況を知りたいと思う 地域福祉の現状を捉えた、市民と地域の理解を得る取組が必要だと感じる 関係団体や支援機関を含む、地域全体のつながりを意識するようになる | <ul style="list-style-type: none"> 地域活動や出前講座等の機会に、地域に寄り、現場の声を直に聞きながら、現状を把握する 他地域の取組なども参考に、多様な学びや実践支援に向け、講座の種類や回数を増やす 講座を通じて、つながりづくりを支援する | |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | ・ふるさと協議会や町会、地域活動団体、企業等からの要望に基づき、市各課の職員が講師として地域に赴く「地域出前講座」を実施した。地域の要望に基づき、各課が実施している事業の説明や専門知識を生かした講座を開催することにより、市民の理解を深め、市民と行政がともに創るまちづくりを推進している。 ・令和7年度においては令和6年度に引き続き、各課及び地域からの講座内容のニーズ把握及び対象者により講座内容の難易度や資料の構成を選べるメニューの整理・検討を行った。 | | |
| 当初期待した効果 | ・単なる事業説明や講座の開催に留まらず、市職員と市民が対話を通じて、地域福祉に関する理解を深めること。 ・庁内複数課が連携し、市の制度・事業の説明や、専門知識を活かした市民の関心に合わせた講座を提供すること。 ・地域住民が身近にある地域課題に気づき、関心を持って「自分のできる活動」を見出すきっかけとなること。 ・様々な制度を知り適切に利用することで、豊かで安心できる生活を送れるようになること。 | | |
| 生じた変化又は課題 | ・講座を通じて住民同士のつながりや交流が促進され、共助の意識が醸成されたこと。 ・好評だった講座については、別の地域での開催依頼が重なりリピーターが増えた反面、職員負担が増えたこと。 ・講座によっては、内容が専門的になり過ぎたため、理解が難しいと感じたという意見があったこと。 | | |
| 今後の取組の方向性 | ・地域からの現在のニーズを反映し、既存メニューの見直しや新規メニューの追加等を検討する。 ・講座開催をきっかけに、地域課題の解決に関わるサポーターや新たな「担い手」「つなぎ手」の養成・確保に向けた働きかけを進める。 ・地域に赴く「地域出前講座」と市各課が主催する講座を両輪として上手く掛け合わせながら、地域の要望へ応えていく。 ・講座参加者の声を踏まえ、資料内容(量、難易度)を見直し、市民に求められる講座を開催していく。 | | |



方針1-施策2 地域福祉を担う人材の掘り起こしと育成・活躍支援

(基本施策2の方向性)

持続可能な地域福祉づくりに向けて、人材育成に加え、新たな「担い手」や「つなぎ手」を発掘するとともに、育成した人材が活躍できる支援体制を構築します。また、関係者同士の連携を強化し、地域課題の解決に向けた多様なサポーターの育成と確保を進めます。

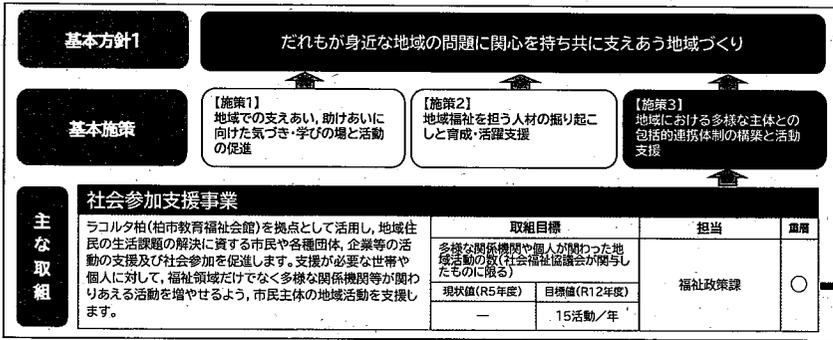
【施策2】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | |
|----|---|--|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域のつながりが大切だと感じる 自分の趣味や得意なことを生かした活動が、地域の健康福祉につながると思う ラコルタ柏での取組等に参加してみようと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域のイベントに参加するなど、地域とのつながりを意識するようになる 地域イベントの案内を身近な人に行う 手伝いや運営側として地域活動に取り組むようになる | 地域における人材が発掘され、だれもが活躍できる場が広がり、地域福祉の向上につながる活動をやりがいを持って行う人が増える |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの活動が、地域の課題解決にもつながると思う 地域活動に関する講座やイベントなどに参加したいと思う 市や地域活動団体と共に、自分たちの地域に合った地域活動に取り組んでみたい | <ul style="list-style-type: none"> ラコルタ柏の取組に参加する 地域課題の解決に向けた活動を企画し運営する 地域活動を担う仲間を増やすための活動の周知や参加を促す取組を行う | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 市民、地域団体、企業等、地域福祉の人材の掘り起こしの必要性を再認識する 地域活動に取り組む個人や団体を支援し、活動の拡大や活動者との連携を意識するようになる | <ul style="list-style-type: none"> 既存の地域人材の把握・整理を行う 社会参加促進のためのイベントを開催する 地域活動に関心が高い地域の人材を発掘し、個人及び団体の活動をサポートする | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|----------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 社会参加支援事業 | - | 310 | | | | | | 300 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|--|----|---|
| 令和7年度事業実績 | <p>ラコルタ柏(柏市教育福祉会館)を拠点に、社会福祉協議会が個別の社会参加支援を展開した。その際、要支援者の「やってみたい」ことの実現に向け従来の『福祉』の枠組みにとらわれない柔軟な支援を行うため、個人・団体・企業に「プレイヤー」としての参画を呼びかけ、当事者(=要支援者)のニーズを形にするイベント等の企画・運営・実施までを協働で進めた。2階多世代交流スペース事業等で関係性を築いた活動団体や個人、学生ボランティアらと共に事業を展開することで、多様なサポーターの育成を目指した。</p>  <p>▲講師(プレイヤー)4名が協働して開催したイベント</p> | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会が、既存の枠組みでは見えなかった地域人材の存在に気づき、マッチングすること。 若手プレイヤーの育成を目的として、(1)学生ボランティアが、一連の活動を通じて社会や福祉の課題に気づき、自分にできることを考えるきっかけとなること。 (2)公共施設が、誰もが安心して過ごせる身近な居場所であることを学生ボランティアが知り、探求学習や将来の学びにつながる体験ができる場として生かすこと。 | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会がラコルタ柏で多様な主体と連携し、各種イベントを実施したことで、「ラコルタ柏=社会参加イベントのプラットフォーム」であることが浸透し始めた。 ラコルタ柏館内で実施する各種イベントを通じて、社会福祉協議会と連携したいと思う個人・団体・企業が増加した。 | | |
| 今後の取組の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ラコルタ柏を拠点として開催する各種イベントから、これまで地域活動との接点が薄かった層や、特技・関心を持ちながらも発揮する場を持たない潜在的なプレイヤーの掘り起こしを目指す。 | | |



方針1—施策3 地域における多様な主体との包括的連携体制の構築と活動支援

(基本施策3の方向性)

地域でさまざまな課題を抱えている人たちのニーズに応じた、より柔軟な支援の実現に向けて、行政による公的支援に加え、地域住民やNPO、ボランティア、民間企業等の担い手による公的制度にとらわれないインフォーマルな支援ができるよう、地域団体、市民、企業等との包括的な連携体制を構築し、地域団体の活動や住民主体の地域活動を活性化させるための支援体制を構築します。

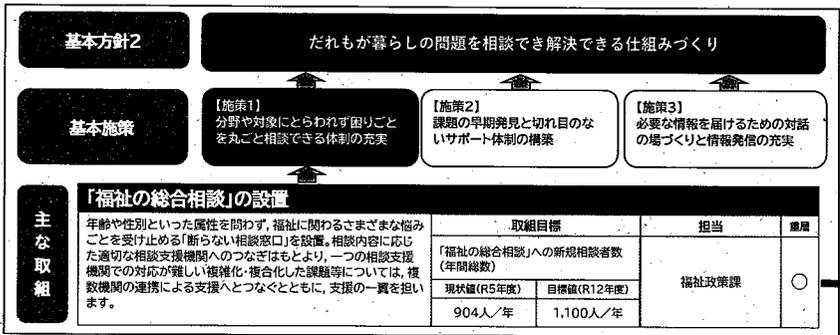
【施策3】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | |
|----|---|---|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 地域活動団体の取組内容に関心を持つ 地域の活動に面白さを感じ、自分にもできることがあると感じる 地域における自分の役割や可能性を認識する | <ul style="list-style-type: none"> 学びや交流の機会となるような地域のイベントに参加する イベントで知った情報や既存の地域活動について家族や友人に紹介する | 多様な主体が相互理解と協力関係を深めて活動し、市民の積極的な参加が促進されることで、地域を軸とした課題解決力が向上する |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の団体や企業同士での連携の必要性を感じ、地域活動に取り組む団体と知り合いたいと思う 地域の課題の解決のために、関係機関と連携体制をつくりたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> イベントなどに参加して連携の相手を探す 多様な主体が連携したイベントを企画し、地域団体や企業が市民の活動を後押しできる活動に取り組む | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 市民、地域団体、企業等、立場や分野を超えた支援体制を構築したいと思う 現状を踏まえた上で今後必要な連携の在り方を考え、関係部署で共有しようと思う 多様な連携の場づくりを進めたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 市民、地域団体、企業の支援体制の状況を把握し、互恵的な関係の構築を支援する 地域福祉の関係機関が、他の関係機関との意見交換や情報共有などの交流の機会を設ける | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|----------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 社会参加支援事業 | — | 23 | | | | | | 15 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|--|----|---|
| 令和7年度事業実績 | <p>ラコルタ柏(柏市教育福祉会館)を拠点に、社会福祉協議会が個別の社会参加支援を展開した。その際、要支援者の「やってみたい」ことの実現に向け従来の「福祉」の枠組みにとらわれない柔軟な支援を行うため、個人・団体・企業に「プレイヤー」としての参画を呼びかけ、当事者(=要支援者)のニーズを形にするイベント等の企画・運営・実施までを協働で進めた。社会福祉協議会からの声掛けにより、地域の活動団体や個人、海上自衛隊等が協働イベントを実施することで、分野を超えた支援体制の構築を目指した。</p>  <p>▲個人・活動団体・海上自衛隊と連携したイベントの様子</p> | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> 「ラコルタ柏」を介して、プレイヤーである個人・団体・企業同士の結びつきやプレイヤーと参加者との結びつき、いわゆる「横のつながり」を構築すること。 社会福祉協議会と連携したプレイヤーが「成功体験」を得ることで地域貢献に対する達成感を高めること。 要支援者が自己肯定感の向上や自分の可能性に気づき、これらが次のステップに進もうとする力へと繋がること。 | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> 様々なプレイヤーとの連携により、障害の有無、高齢、親子、夫婦、学生、子育て世帯等、幅広い層が同じ空間で過ごす場を提供することができた。 公的サービスでは解決できない市民の困りごとや孤独感を、「福祉課題解決のため」ではなく「面白い・楽しいアイデアの実現に手助けした」多様な主体の力が、結果的に市民の福祉課題の深刻化を防ぐ予防的支援に結びつくことがわかった。 | | |
| 今後の取組の方向性 | これまで福祉に関心がなかった若年層や現役世代、団体、企業等が「これなら自分も関わりたい」と思える入り口を作り、地域の担い手の輪を拡大させていく。 | | |



方針2-1 施策1 分野や対象にとらわれず困りごとを丸ごと相談できる体制の充実

(基本施策1の方向性)

市民が抱える複合的な課題を、丸ごと受け止めながら迅速な支援につなげていくために、関係者間の分野横断的な連携体制を整備し、福祉の総合相談窓口の体制を強化します。また、福祉関係者の相談支援スキルの上昇を図り、市民が身近な場所で気軽に困りごとを相談できる環境づくりを進めます。

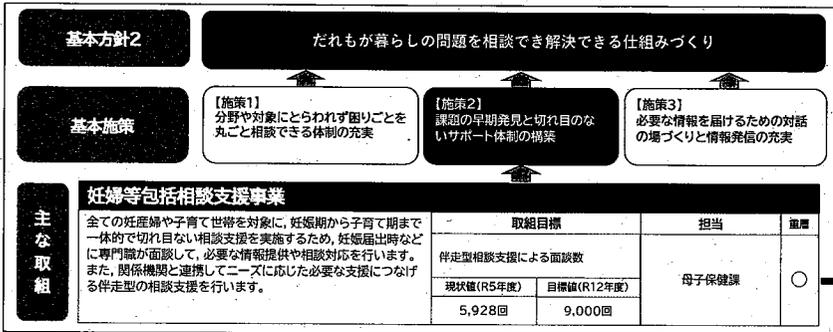
【施策1】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | 目指す成果 |
|----|--|---|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する相談先としてどのような窓口があるのか知りたいと思う 日常生活の中で抱えている不安や課題を相談してみようと思う | <ul style="list-style-type: none"> 市のホームページなどで地域生活課題や相談できる場所(福祉関係機関)を調べる 福祉関係機関に気軽に相談できるようになる | だれもが躊躇なく相談できるワンストップの相談体制が構築され、不安や悩みを抱えている人が、解消に向けて、さまざまな支援機関とつながることができるようになる。また、相談内容に応じて関係機関が横のつながりを構築し、チームとして機能するようになる |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 困っている人に気づき、相談支援につなげてあげたいと思う 地域で相談ニーズのある人を早期発見できるようにしたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域生活課題やさまざまな福祉相談窓口(福祉関係機関)について調べるようになる 地域全体で相談ニーズのある人を気にかけるようになる 地域でだれもが気軽に相談できる場所を作る | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 日頃から各関係者と情報交換や連携を深めることを意識しようと思う 適切な関係先につなげられるように、相談支援機関同士の連携体制を強化したいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 相談支援機関同士が知り合う場を提供する 断らない相談窓口として機能できるように、相談員を適正に配置するとともに、関係課と連携し機能する相談体制を作る | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|--------------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 「福祉の総合相談」の設置 | 904 | 590 | | | | | | 1,100 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | <p>悩みを抱えている方の年齢、性別、悩みの度合いや内容を問わず、福祉に関する悩み事を24時間365日いつでも相談できる「悩み相談AIチャットシステム」を活用し、取組を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 悩みごと解決に向けた課題整理のサポートをする傾聴機能の他に、具体的な相談窓口の案内機能や相談員へのコーディネーション機能を追加実装したことにより、市民が必要としている情報を、わかりやすく適切に届けられるようになった。 メディア等を通じて本事業を積極的にアピールすることで、市民が本システムを認知する機会を提供した。 市が作成している相談窓口案内冊子等に相談窓口の一つとして「悩み相談AIチャット」を追加することにより、市の相談窓口の更なる充実を図った。 <p>▲悩み相談AIチャットシステムの画面</p> | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> お困りごとをどこに相談すればよいかわからないといった市民や、相談することに躊躇いを感じている市民が適切な相談窓口、ひいては、適切な相談支援へつながること。 事業周知や広報啓発を通じて本システムが市民に認知されることで、子どもから高齢者まで支援を必要とする人に適切な支援が届くようになること。 市の相談体制が充実し、多様化及び複雑化している福祉ニーズや生活課題に対応できるようになること。 | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> これまで支援につながりにくかった、若年層(10代~30代)からの利用、また、就職氷河期世代(30代~50代)の利用が多く見られた。 本システムの導入は、従来相談窓口につながることが少なかった若年層への新たなアプローチ方法となり、若年層が相談窓口相談することの心理的ハードルの低下につながったと考えられる。 一方で、システムの認知を高め利用者数を増やすための事業周知及び広報啓発に改善の余地があると考えているため、次年度の課題と捉えている。 | | |
| 今後の取組の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 本システムを通じて若年層が「相談窓口相談する」ことのハードルが下がったと考えているが、一方で、まだ相談をすることについて躊躇いを感じている方が年代を問わずいると見込んでいる。これらの方々の相談の入口となるように、世代を問わず支援を必要としている誰もが本システムに簡単にアクセスできるような事業周知及び広報啓発を進める。 様々な会議体を利用して庁内関係課や支援者の顔が見える機会を確保し、各相談窓口同士のネットワークを強化することで、引き続き市の相談体制の充実を図る。また、そういった機会を活用し事業周知及び広報啓発も行うことで、地域においても気軽に相談できる体制を整える。 | | |



【施策2】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス)

| 対象 | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
|----|--|---|--|
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 市内にある妊娠、出産、子育てに関する相談先を知りたいと思う 妊娠から子育てまでの不安や悩みを継続的に相談したいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 妊娠、出産、子育てに関する相談先としてどのような窓口があるか調べる 妊娠時から子育て期まで、定期的に専門職へ相談する | 妊娠した時から、子育てが終わるまでの不安や悩みを効果的に解決しながら、安心して自分があった育児ができるようになる |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な妊産婦や子育て世帯の力になりたいと思う 地域での見守りの必要性を感じる | <ul style="list-style-type: none"> 困っている妊産婦、子育て世帯がいたら、民生・児童委員や市の相談窓口などにつなぐ 地域ごとにサポート体制を考えるようになる | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 必要な人が、いつでも気軽に相談でき、必要な支援機関につながりやすい環境にしたいと思う 妊娠、出産、子育てに関する関係機関が一体となり、支援できる体制づくりを進めたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 妊娠、出産、子育てに関するニーズや相談機関の情報を把握・整理し、情報共有や連携を積極的に行う 地域や関係機関など、必要な支援につなげられるよう、連携・役割分担を回り支援する | |

方針2-施策2 課題の早期発見と切れ目のないサポート体制の構築

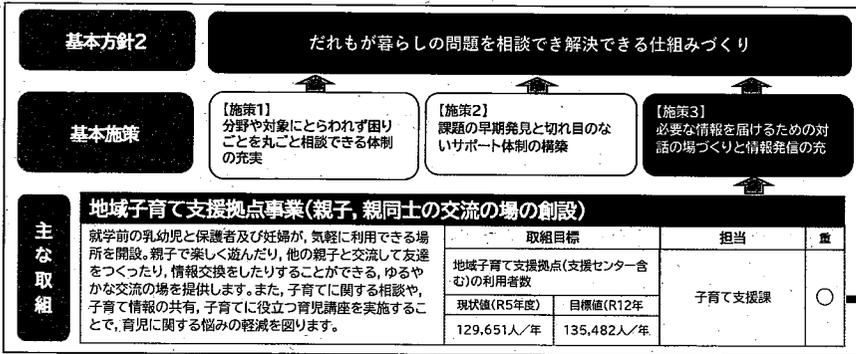
(基本施策2の方向性)

地域と連携した見守り活動により、地域生活課題や市民の個別課題を発見・把握する仕組みづくりを行うとともに、庁内連携会議などを通じた行政内での連携体制を構築します。これにより、福祉サービスの充実と、切れ目のない支援体制を構築します。

| 事業名 | 現状値 (R5) | 実績値 | | | | | | 目標値 (R12) |
|-------------|----------|-------|----|----|-----|-----|-----|-----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 妊婦等包括相談支援事業 | 5,928 | 4,933 | | | | | | 9,000 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

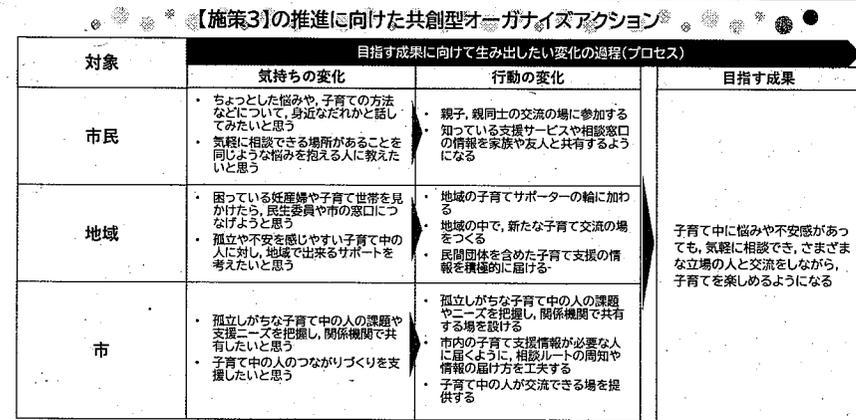
| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | ・妊娠前から子育て期まで一体的で切れ目のない相談支援を実施するため、妊娠届出時、出産前、出産後の適切な時期に妊婦との面談を行っている。1回目にあたる妊娠届出時、3回目にあたる新生児訪問(こんにちは訪問)はほぼ届出を受けた全ての方と面談を実施した。しかし、出産前の2回目面談は例年実施数が低調であり、今年度から実施方法を見直した。 ・妊婦7~8か月アンケートのURLを、妊婦支援給付金の2回目の案内メールを通じて周知し、このアンケート回答者に対し全件架電をし、電話面談を行った。希望者には対面での面談を行った。 | | |
| 当初期待した効果 | ・妊婦に対しての2回目面談の周知方法を変更することで、実施件数が増加すること。 これに付随して、 ・出産前の不安や悩みを妊娠7~8か月アンケートにて発信することができること。 ・妊娠前から子育て期まで切れ目なく相談できること。 ・専門職と面談をすることで適切な情報提供、支援に繋がることができること。 | | |
| 生じた変化又は課題 | ・2回目面談率の増加を意図し、妊婦支援給付金の案内メールと併せて妊娠7~8か月アンケートを周知したところ、アンケート回答率が昨年度約2割から今年度約3割へと増加した。 ・妊娠7~8か月アンケート回答者の多くが面談を希望していないが(アンケート回答項目に面談希望の有無が設定されている)、面談希望のない回答者にも架電すると、不安や悩みを抱えている妊婦が一定数いることがわかった。これらの方々に電話で接触し、妊娠後期の不安や悩みに対して適切な情報を提供することができた。 ・アンケート回答者及び継続支援で関わっている妊婦への関わりは継続しているが、アンケート未回答者は妊娠後期に支援が必要な場合に早期把握ができないこと。 ・今回、アンケート周知方法を変更したものの、依然として2回目面談に係るアンケート回答率が約3割と低いことから、ポピュレーションアプローチとして出産前の適切な時期に全数の妊婦と関われる方法の検討が必要であること。 | | |
| 今後の取組の方向性 | ・妊娠7~8か月アンケート回答率をあげるために、引き続き周知方法を検討する。 ・2回目面談が出産前の適切な時期に全数の妊婦に実施できるポピュレーションアプローチ方法及び体制づくりを検討する。 ・妊婦等包括相談支援事業の事業評価方法を検討する。 | | |



方針2-施策3 必要な情報を届けるための対話の場づくりと情報発信の充実

(基本施策3の方向性)

市民の現状やニーズを適切に把握しながら、必要な情報が適切に届くようにするために、行政からの一方だけの情報発信だけでなく、地域福祉のプラットフォームとして、市民との積極的な対話の場づくりを行うとともに、関係部署が連携しながら情報発信の充実を図ります。



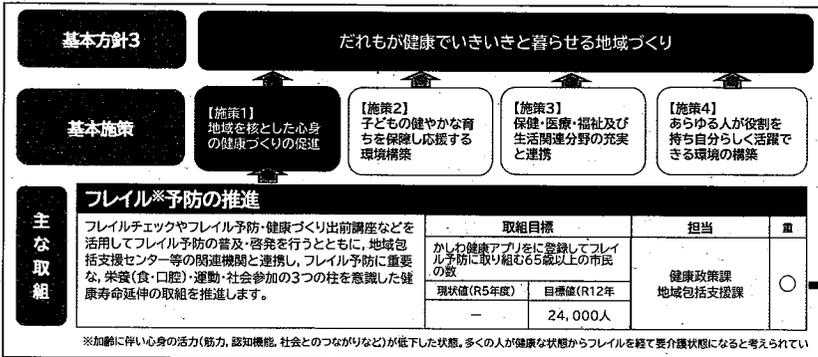
| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|-----------------------------|---------|--------|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 地域子育て支援拠点事業(親子、親同士の交流の場の創設) | 129,651 | 95,715 | | | | | | 135,482 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> 市内19カ所で地域子育て支援拠点を開設することで、親子、親同士のゆるやかな交流の場を提供した。令和7年12月末現在で95,725人の親子が利用した。 市後援事業「子育て支援スタンプラリー」の対象施設に各拠点を設定し、来館することでポイントが付与される仕組みとした。 12月から私立保育園等に併設する子育て支援センターにおいて、出前保育し、相談事業の強化を開始した。 1月には「柏市子育て施設・相談情報」のチラシを作成。市内公共施設での配布だけでなく、妊婦子育て相談窓口において、母子手帳交付と併せて配布・周知を開始した。 | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> 多くの拠点が気軽に来館できるよう予約不要としていることや、「柏市子育て支援施設・相談情報」のチラシや各拠点のチラシで気軽に相談が可能なことを周知することにより、「ちょっとした悩みや、子育ての方法などについて、身近なだれかと話してみたいと思う」こと。 「親子や親同士の交流の場に参加する」「拠点のスタッフに悩みや子育てについて話をする」こと。 | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> 従来からの自由来館に加え、子育て支援スタンプラリーの対象施設とすることで、多くの親子に交流の場があることの周知につながったこと。 母子保健課によるオンラインでのママパパ学級開催時に各拠点の紹介を行うことで、妊婦の時から施設が把握でき、出産後の来所が増え、出産直後の孤立感の軽減につながっていること。 | | |
| 今後の取組の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援センターにおける出前保育の実施や相談事業の強化、及び、「柏市子育て施設・相談情報」のチラシ配付は開始後日が浅いため、次年度も引き続き実施し効果を検証する。 子育て世帯の悩みの傾向を把握し、市民が利用したいと思う拠点運営を継続していく。 | | |



▲作成した『柏市子育て支援施設・相談情報』のチラシ



方針3—施策1 地域を核とした心身の健康づくりの促進

(基本施策1の方向性)

ライフステージや個人の心身の状態に合わせながら市民の主体的な健康づくりを推進します。また、地域を核に社会参加や交流を促進し、身体的な健康に加え、心理面や人とのつながりなどの社会面での健康づくりを図ります。

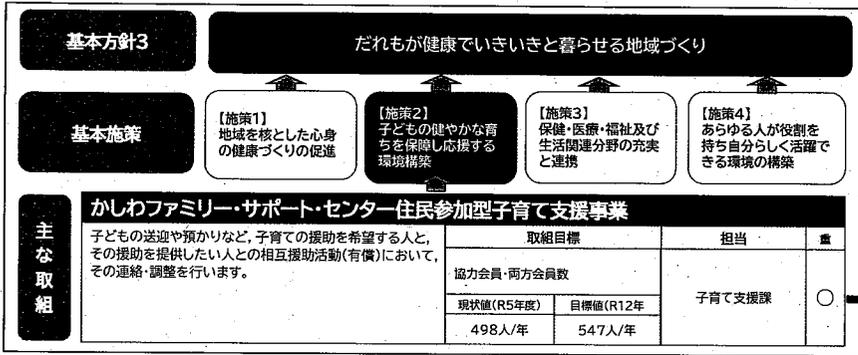
【施策1】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | |
|----|--|--|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 自身の健康維持に取り組みたいと思う 将来に備えてフレイル予防の情報や具体的な実践方法を学びたいと思う フレイル予防活動に参加したいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 自分の健康習慣の振り返りや、健康状態を把握することを意識的に行うようになる フレイル予防など、健康増進につなげるために、生活習慣の見直しや地域活動に参加する | フレイル予防の理解促進とフレイル予防を核とした地域づくりや地域活動が活性化し、要介護認定率下がりが、健康寿命が延伸している |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> フレイル予防等の地域活動への参加を促す活動をしたと思う 生活環境や心身状態に合わせ、地域でできる多様な社会参加活動に取り組みたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域でフレイル予防の普及啓発活動を行う 地域の中でできる社会参加活動を増やす | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 心身の健康を向上させるため、フレイル予防などの予防活動を重視していく必要性を、関係者により一層理解してほしいと思う 心身の健康における市の現状を把握するためのデータや、他地域の活動など、必要な情報を把握したいと思う | <ul style="list-style-type: none"> フレイル活動など予防活動に関して、市の現状を把握するデータや、他地域の活動など、必要な情報を集める 市の現状や課題をふまえ、フレイル予防を中心に、予防活動を目的とした講座を関係部署と連携しながら企画していく | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|-----------|---------|--------|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| フレイル予防の推進 | — | 10,220 | | | | | | 24,000 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | フレイル予防の普及啓発を目的に、市内各地域のイベントなどの機会を通し、チラシ配布などの啓発活動を実施。自身の心身の状態を確認し、気づきを促すフレイルチェックや、フレイル予防や健康づくりのきっかけとなることを目的とした出前講座を実施。また、令和7年度より、健康づくりや高齢者の社会参加を促進する目的で、日々のウォーキングや団体活動への参加でポイントが貯まる「かしわ健康アプリ事業」を開始した。 ・フレイルチェック 73回、1,227人 ・出前講座 126回、2,217人 ・啓発イベント 7回、3,646人 ・アプリインストール者数(全数) 24,479人 | | |
| 当初期待した効果 | ・「フレイル」という言葉を知ってもらい、自分自身の振り返りをする中で、フレイル予防を自分事として捉えてもらうこと ・フレイル予防に必要な栄養(食・口腔)・運動・社会参加の三つの要素を学び、具体的な実践方法を自身の生活の中に取り入れてもらうこと ・健康アプリを活用することで、日常的にフレイル予防や健康を意識し、生活習慣の見直しや、地域の活動への新たな参加へのきっかけになること ・健康アプリを活用し、ポイントが貯まることで、無理せず楽しみながら活動を継続してもらうこと ・継続した活動により、要介護認定を遅らせ、介護給付費を減少させること | | |
| 生じた変化又は課題 | ・フレイル予防に関する普及啓発については、昨年度と同様に実施できており、フレイルに関する認知度の向上や、講座参加者では自分自身の心身の状態に関する気づきにつながり、知識の普及や日常生活に取り入れてもらうことにつながっていること。 ・健康アプリ事業に関しては、今年度開始事業であり、効果についてはアンケートなどを行い分析を行う予定。高齢者ではスマートフォンの使用に不慣れな方が多い状況にあり、インストールや操作方法について重点的に説明を行う必要があること。 | | |
| 今後の取組の方向性 | ・これまでのフレイル予防事業の効果検証結果から、要介護認定を遅らせ、介護給付費の削減につながる事が分かっており、引き続き、フレイル予防の普及啓発を行い、新規参加者獲得に向けて取り組みを推進していく。 ・健康アプリ事業に関しては、継続したフレイル予防・健康づくりにつながるよう、インストール者数、アクティブユーザー(インストールするだけでなく、実際に活用しているか)を増加させるため、周知を強化していく。 ・特に高齢者については、窓口での相談対応や、地域の団体への相談会などを実施し、アプリの利用促進につなげるとともに、デジタルデバイドの解消につなげていく。 | | |



方針3-施策2 子どもの健やかな育ちを保障し応援する環境構築

(基本施策2の方向性)

子どもと保護者が心身の健康を維持・増進できるように、切れ目のないきめ細かな支援を充実していきます。また、地域における子どもの居場所づくりを拡充するとともに、地域内での相互援助活動の活性化を図ります。

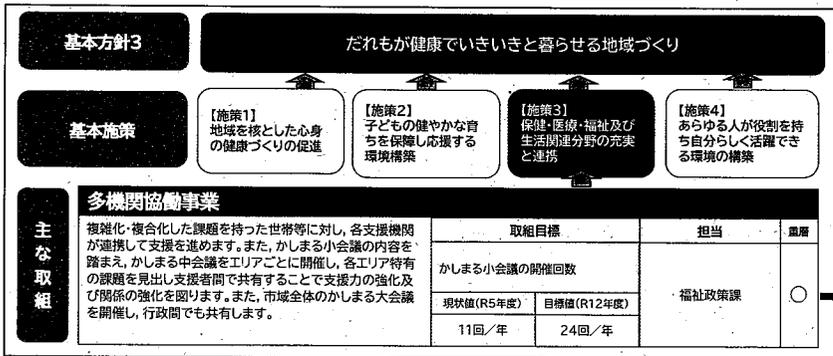
【施策2】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | 目指す成果 |
|----|--|--|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援に関する情報を知りたいと思う 子育て支援のサービスを使ってみようと思う | <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援に関する情報を主体的に収集するようになる 自分に合った子育て支援のサービスを選択し、利用登録などをする | 子どもを中心として、子育てに多くの人が関わり、親の不安や負担が軽減され、親も子どもも安心して暮らせる地域づくりが進んでいる |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 地域で子育てを支える人材として関わりたいと思う 子育て中の人のニーズなどを踏まえた上で、地域が一体となって、子どもを育てる取組をしていこうと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域で子育てを支える人材として、サポーターなどの活動に参画する 地域の中で住民同士の連携を深め、協力者を増やしていく | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 地域で子育て中の人のニーズや、現状のサービスにおける課題を把握し整理しようと思う 支援の充実に向け、支援内容や体制、人材の確保について関係機関と継続的な検討をしていこうと思う | <ul style="list-style-type: none"> 市民に事業を周知するための資料やチラシの作成、イベントを開催する 支援の充実に向け、支援内容や体制整備、人材の確保について関係機関と継続的な検討の機会を設ける | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|--------------------------------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| かしわファミリー・サポート・センター住民参加型子育て支援事業 | 498 | 522 | | | | | | 547 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | ・協会員・両方会員(※)の担い手を増やすために年6回の基礎研修会を実施。 これまで別日で行っていた応急救命実習を同日に行うことにより、登録までの負担の軽減を図った。 ・両方会員の増加を目指し、学校・保育園を通じて子育て世帯に会員募集のチラシ配布を行った。 ・「はぐはぐフォーラム2026」にて来館した親子や、子育て支援団体へ会員募集のPR活動を実施した。 ・自宅のみならず、複数の大人の目がある地域子育て支援拠点での預かり(施設預かり)ができることの周知を強化した。 (※)本事業には利用会員(サービスを利用したい方)と協会員(サービスを提供する方)が設定されており、両方会員とは利用会員と協会員を兼ねた会員のこと。 | | |
| 当初期待した効果 | ・自宅に預かることに不安を抱えている方に対し、施設預かりができることを周知することで、「地域で子育てを支える人材として関わりたいと思う」ということ。 ・「地域で子育てを支える人材として、協会員・両方会員へ登録する」ということ。 | | |
| 生じた変化又は課題 | これまでと同様、自身の子育てがひと段落した方のほか、現在子育て中の方への周知を強化する。また、自宅に預かることに不安を抱えている方に対し、施設預かりができることを周知することで、「地域で子育てを支える人材として関わりたいと思う」という気持ちの変化に期待した。 それに加えて「地域で子育てを支える人材として、協会員・両方会員へ登録する」という行動の変化に期待した。 | | |
| 今後の取組の方向性 | ・継続した周知活動のほか、子育て支援団体や、子育て世帯が多く来場するイベント等へのブース出展等も検討し、協会員・両方会員の増加を目指していく。 ・施設預かりの様子を広報することで、預かりのハードルを下げ、「私にもできそう」という方の参画を促していく。 ・自身の子育てがひと段落した方のほか、現在子育て中の方への周知を強化する。 | | |



【施策3】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | |
|----|--|--|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活におけるちょっとした悩みや困りごとを相談しようと思う 専門機関などを活用しながら、自身が抱えている課題を解決していこうと思う | <ul style="list-style-type: none"> 悩みごとや困りごとを相談できる専門支援機関の窓口を探す 支援サービスを活用しながら、自身が抱えている課題解決に向けた行動を起こす | 日常生活に課題を抱える市民が、保健・福祉等の適切な支援につながり、サービスを活用しながら、自身が抱えている課題を解決し、その人らしく地域で生活していくことができる |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活においてどのような悩みや課題を抱えている人があるのか、知ろうと思う 課題を抱える人たちに對して、地域でできるサポートをしたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活において悩みや課題を抱えている人の相談相手となり、必要に応じて相談機関につなげる 地域の助けあい団体や見守り活動を増やす | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 地域で連携できる支援機関だけでなく、活用できる地域資源を把握し、整理しようと思う 多機関連携を促進するために、必要な情報や事例共有などの支援体制の在り方を庁内の関係各課と検討しようと思う | <ul style="list-style-type: none"> 支援機関や地域の自主組織が連携できる体制を整える 体制が効果的に機能できるように、積極的な情報提供などを行い、必要な支援がある場合はサポートを行う | |

方針3—施策3 保健・医療・福祉及び生活関連分野の充実と連携

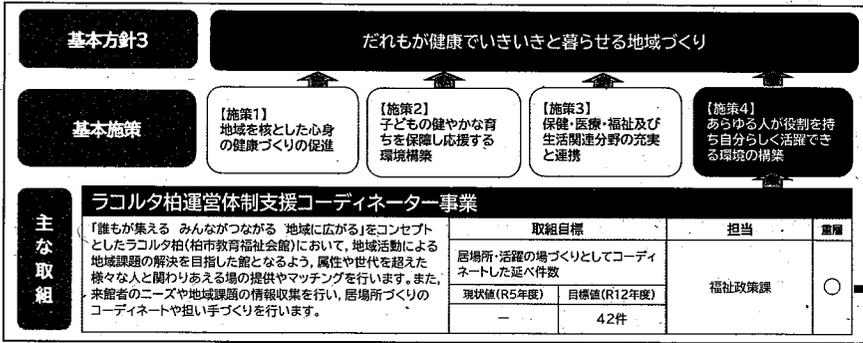
(基本施策3の方向性)

医療・介護・住まい・生活支援など、医療や福祉の専門職と地域との連携による支援体制を強化します。また、健康面で支援が必要な地域住民の早期発見や見守り活動の充実などにより、できる限り地域での自立した生活を支援するための環境づくりを行います。

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|---------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 多機関協働事業 | 11 | 21 | | | | | | 24 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会の連携会議を4回開催した。年度当初に関係課所属長を対象とした会議を開催し、庁内各課と「地域共生社会の理念」これを実現するための手段の一つとしての「重層的支援体制整備事業」さらに、この事業の中核をなす「多機関協働事業」を共有することで庁内における連携・協働の意思統一を図った。その後2回からは各課担当者が出席し「孤独・孤立」をテーマとしてその課題や課題解決に向けて各課が対応できることについて検討し、他課担当者と対面で議論を進めた。 ・かしまる小会議を21回開催した。支援世帯数としては新規9件、継続7件であった。 ・庁内外において重層的支援体制整備事業に係る職員研修を開催し「地域共生社会/重層的支援体制整備事業/多機関協働事業」について研修を行った。庁内では重層的支援体制整備事業に関わっている部署の職員に、また、これと別に福祉部内職員向けに開催した。庁外では地域包括支援センターが開催しているケアマネージャー向け研修会にて庁内と同様に研修を行った。 | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援体制整備事業はその事業範囲が広いことから、また、令和6年度末に国からの事業見直し連絡があったことから、改めて事業に携わる全職員が同じ方向を向いて事業を推進すること。 ・庁内外を問わず、支援に携わる職員が事業の中核をなす「多機関協働事業」の位置付けを正しく理解することで、高齢・障害・困窮・子どもの各分野ができる支援の幅を互いに少しずつ広げる意識を醸成すること。 ・市民に近い位置で支援に携わるケアマネージャーが事業を理解し、市民のお困りごとが解消すること。 | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・かしまる小会議を利用して、会議に集まった支援者同士の情報提供/収集が進んでいる。今までは高齢・障害・困窮・子どものうち一部分野の支援者が顔を合わせる機会があったが、世帯支援に携わる全分野が顔を合わせることで、それぞれの分野が何を意図して支援を進めているかを理解し、さらに専門外の分野の支援状況を共有することで世帯員ごと(分野ごと)の支援は元より「世帯」を意図した支援を進められるようになったこと。 ・かしまる小会議にあがる世帯として、地域包括支援課を経由するもの(ケアマネージャー発の世帯)が散見されるため、研修会の効果が少しずつ浸透していると見込まれること。 ・庁内各課では「包括的な」相談支援が進められているものの、分野ごとの垣根が完全に外れたわけではない。各分野が「お互い様」の意識で支援を進められるような雰囲気醸成していく必要があること。 ・かしまる小会議を通じて外国人世帯に向けた支援への課題が認識された。今まで関係が薄かった国際交流センターと連携する体制がとれたため、協力して支援を進めること。 | | |
| 今後の取組の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・庁内職員、外部支援者への研修を継続し、支援に携わる職員の事業理解を深める。 ・支援者から、支援を進める上での課題を聞き取り、これを解決できるよう庁内外の様々な機関との連携を進め、支援機関・庁内関係各課・地域と連携して支援を進めていけるよう、体制整備に取り組む。 | | |



方針3-施策4 あらゆる人が役割を持ち自分らしく活躍できる環境の構築

(基本施策4の方向性)

子どもから高齢者まで、また社会的弱者も含め、あらゆる人がその人に合った形で活躍できる環境づくりをすすめます。また、支え・支えられる関係が循環しながら、自分らしく活躍できる環境づくりを進めます。

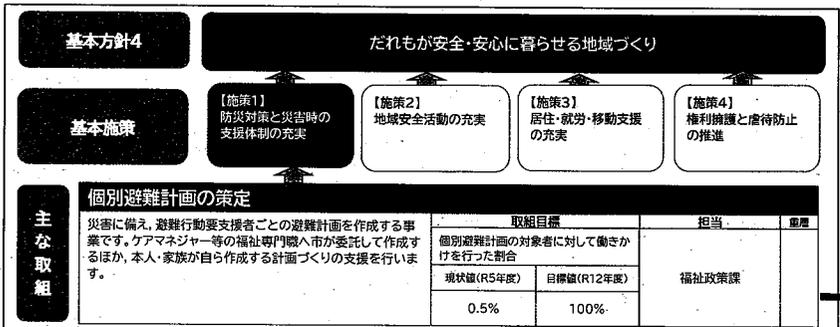
【施策4】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | |
|----|--|---|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> ラコルタ柏で何ができるのを知りたいと思う 興味関心がある活動を探したいと思う 活動に参加するだけでなく、活動してみたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> ラコルタ柏に行き、コーディネーターに話かけたり、市のホームページで調べたりしている 自分が実施したい、活躍したい、得意と思っている活動を見える化できる 主催者としてイベントを開催する | 属性に関わらず多くの市民や団体が、自分に合った活動を見つけ、活躍できる場がある。また、暮らしている地域に活動を広げ、地域の活動に関わる人材が増える |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> ラコルタ柏を使ってみたいと思う ラコルタ柏で住民参加や交流につながる機会をつくりたいと思う 自分たちの地域でもイベントを開催したいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域イベントとして、ラコルタ柏のイベントを地域で周知し、参加している ラコルタ柏を使ってイベントを開催する 地域の施設等で、イベントを企画するようになる | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 来館者を通して、地域の課題や現状を知りたい、把握したいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 来館者が活躍できるイベントの開催を手伝い、コーディネーターができる 来館者のニーズの考察をする 関係機関と人材のパイプ役を行う | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|---------------------------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| ラコルタ柏運営体制支援 コーディネーター事業 | - | 13 | | | | | | 42 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|---------------|---|----|---|
| 令和7年度 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> ラコルタ柏(柏市教育福祉会館)のコンセプトの具現化に向け、市民・行政・ラコルタ柏をつなぐラコルタ柏コーディネーターを配置。 令和7年度は、ラコルタ柏が市民にとっての「自分らしく活躍できる場」となるよう、コーディネーターと市民や関係機関等との出会いを起点とした、活動への一歩を支える機会の創出を意識した。 ラコルタ柏の運営や企画を市民委員と共に検討するラコルタ柏事業推進委員会(JSI)において、コーディネーターの声掛けや広報により、施設運営に関心のある市民が新たに委員として参画した。市民委員発案の企画に対し、具体化に向けた伴走支援を実施し、市民が主体的に活躍できる機会を創出した。 令和6年度に引き続き、1階障害者活動センターの登録団体のミーティング等へコーディネーターが参加することで、2~5階との物理的・心理的な壁を取り払い、施設全体を活躍の場として活用することを促進した。 | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> ラコルタ柏事業推進委員会(JSI)への企画提案が自発的に増えること。また、ラコルタ柏事業推進委員会委員やイベントに参加した市民が、ラコルタ柏の役割(単なる貸館ではない拠点性)を認識すること。 イベントの有無に関わらず、市民がラコルタ柏に日常的に訪れ、コーディネーターとの対話や市民同士の交流のための居場所として施設を利用すること。 | | |
| 生じた変化 又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> コーディネーターによる声掛けや伴走支援により、自身のノウハウやアイデアを施設運営に活かしたいと考える市民が増加したこと。 障害者活動団体が、コーディネーターとの対話を通じて活動の場を施設全体(1階から3階等へ)に広げるなど、多様な人々との交流を伴う活動形態へと変化したこと。 課題としては、コーディネーターが「活躍したい市民」と出会う機会を最大化するため、館内のコンシェルジュとしていつ相談できるのかという情報を市民に分かりやすく提示する必要があること。 | | |
| 今後の取組 の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 「ラコルタ柏で何かやってみたい」と思う、「ラコルタ柏の小さな主人公(市民)」を増やすために、コーディネーターが多様な市民と出会い、ラコルタ柏事業推進委員会等で市民が行政と協働して自身の企画や想いを実現できる「活躍の舞台」としてラコルタ柏を活用していく。 コーディネーターとの出会いがスムーズになるよう、「コンシェルジュの日」などの稼働状況を可視化し、市民が相談しやすい環境づくりを検討していく。 コーディネーターを介して生まれた「市⇄市民」の繋がりを、市民同士が自律的に連携し活躍し合える「市民⇄市民」のネットワークへと発展させていく。 | | |



方針4—施策1 防災対策と災害時の支援体制の充実

(基本施策1の方向性)

災害時に備えた平時からの地域連携を強化するとともに、災害発生時において要配慮者の安全・安心が確保できるように、避難支援体制の構築やボランティアコーディネート機能の充実を図ります。また、被災後も早期に的確な復興ができるように、事前の対策を講じていきます。

【施策1】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

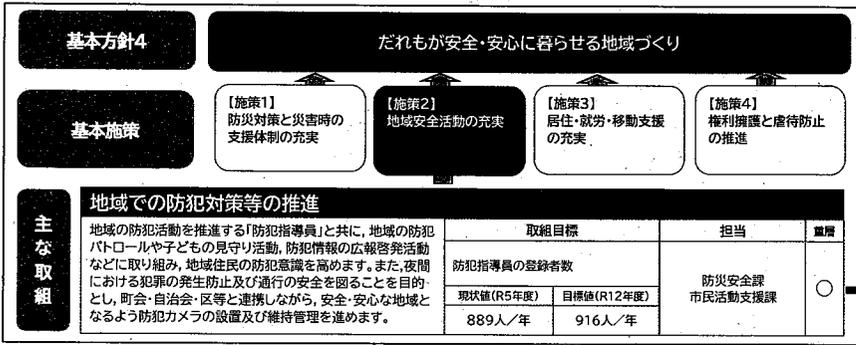
目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス)

| 対象 | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
|----|---|---|--|
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 普段から災害を意識し、災害を自分ごとにする 平常時においても災害に備え、防災用品や避難場所、避難経路などを確認しておくと思う | <ul style="list-style-type: none"> 災害対策に関する情報の収集や、勉強会に参加するようになる 日頃から災害に対する備えを行い、自主的に避難計画を作成する | 市民の災害への意識が高まり、日頃からの備えが強化される中で、多様な立場の人への理解と備えの必要性を考え、災害時に誰もが適切な行動がとれる状態になっている |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 災害時に支援が必要な人の状況などについて関心を持つようになる 普段からの住民同士のつながりが大切だと思う 地域で助け合える環境をつくりたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域内で避難計画や訓練、防災に対する勉強会を開催する 地域にはさまざまな立場の人がいることを理解し、日頃から「見守り」や「声掛け」をするようになる 避難行動要支援者も含め、地域単位での避難方法を検討し、地域内で共有する | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 災害に備え、住民同士のつながりの状況や支援が必要な人の情報などを日頃から把握・整理できる体制を関係機関と進めたいと思う 災害を自分ごとと捉えてもらうために、情報発信の工夫が必要だと思う | <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と定期的に情報共有をする 市民同士のつながりで避難行動要支援者への支援ができないケースを把握し、対策がとれるようになる 広報啓発や学びの機会の充実を図る | |

| 事業名 | 現状値 (R5) | 実績値 | | | | | | 目標値 (R12) |
|-----------|----------|------|----|----|-----|-----|-----|-----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 個別避難計画の策定 | 0.5 | 21.4 | | | | | | 100 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|--|----|---|
| 令和7年度事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障害のある方など、災害時に支援が必要な方々は「自力で判断・行動する」ことが難しい場合があることから、日ごろからの個人の防災意識の向上、災害への備えを強化する必要がある。 そのため、令和6年度に引き続き、個別避難計画の重要性について、チラシ作成等による情報発信を行い、避難行動要支援者約2千人に対して、セルフプランの作成の働きかけを行った。 また、並行して「防災福祉K-Net制度(地域住民による安否確認等の支援を行う共助の制度。事前登録制。)」の個別案内を行うことで、災害時における地域住民のつながりの重要性や自身の災害に対する備えを再認識してもらうように促した。 避難行動要支援者の中でも、電源喪失により生命維持が即時困難となる人工呼吸器使用者に対しては、医療に関するケア及び医療機器の使用に伴う専門的な知識を要するため、看護専門職に委託して作成を行った。 | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> 個別避難計画を作成する過程において、避難行動要支援者自身の避難時の不安が軽減され、「避難行動のハードル」が下がること。 市民が自ら災害時に備え、事前に個別避難計画を作成をしておくことで、防災意識の向上が図られるとともに、災害時に円滑な避難行動がとれる状態になっていること。 セルフプランの作成によって、災害時の迅速な判断につながる。 | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> 多くの要支援者にアプローチしたことにより「個別避難計画」の重要性を周知できたこと。(意識づけができた) 人工呼吸器使用者については、すでに本人・家族と関係性を構築している看護専門職に依頼したことにより、「個別避難計画」の重要性への理解がより進んだこと。 課題としては、対象者(本人・家族等)から作成の同意を得る必要があるため、すべての避難行動要支援者の計画作成を進めるには、個別避難計画の必要性について継続した周知・啓発が必要であること。 | | |
| 今後の取組の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も避難行動要支援者に対する制度周知による意識の変容を図るとともに、未作成者への計画作成を働きかけていく。 特に人工呼吸器使用者の計画作成促進を図る。 個別避難計画は「その人だけのもの」ではなく、自助が強化されることで、支援関係者の負担軽減や地域全体の防災力向上に寄与することを多くの方に認識してもらえよう働きかけを検討したい。 | | |



方針4—施策2 地域安全活動の充実

(基本施策2の方向性)

住民の防犯意識の向上に向けた普及啓発や、防犯対策を意識した地域環境の整備を進めます。また、地域と連携し、日頃から防犯の視点を持って見守り活動を行うことで、安全・安心な地域づくりを進めます。

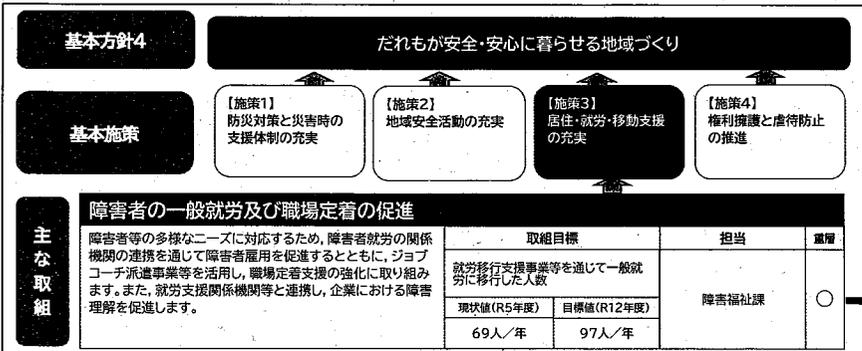
【施策2】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | |
|----|--|---|---|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | 目指す成果 |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 消費者トラブルや事故、犯罪被害などを自分ごとと思う 隣近所への声掛けや、町会の防犯活動に参加しようと思う | <ul style="list-style-type: none"> 日頃から自分でできる防犯対策を行う 日頃から隣近所へ声掛けをしたり、町会の防犯活動などに参加したりする | 市民の防犯への意識が高まることともに、防犯指導員を中心、互いに声掛けなどを行いながら防犯活動が積極的に行われることで、地域住民が不安なく安心して暮らすことができる |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の犯罪状況や防犯対策の取組などの情報に関心を持つ 地域の防犯パトロールや子どもの見守り活動、防犯情報の広報啓発活動に積極的に取り組もうと思う | <ul style="list-style-type: none"> 地域内の防犯・安全面で気になることがあれば市などに情報提供する 日頃から町会内で声を掛け合うようになる 町会等の防犯活動を担う防犯指導員や協力する地域住民が増える | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりの防犯意識を高めたいと思う 町会と連携しながら必要な支援や役割分担を整理しようと思う 防犯対策などに役立つ情報を収集し、市民や地域が役立てられるようにしようと思う | <ul style="list-style-type: none"> 市民や町会に役立つような情報提供や啓発活動を行う 町会の取組状況や、ニーズ・課題を把握しつつ、情報交換の機会を増やす 町会活動を支援するため、財政面での支援を整備する | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|--------------|---------|------|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 地域での防犯対策等の推進 | 889 | 1026 | | | | | | 916 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

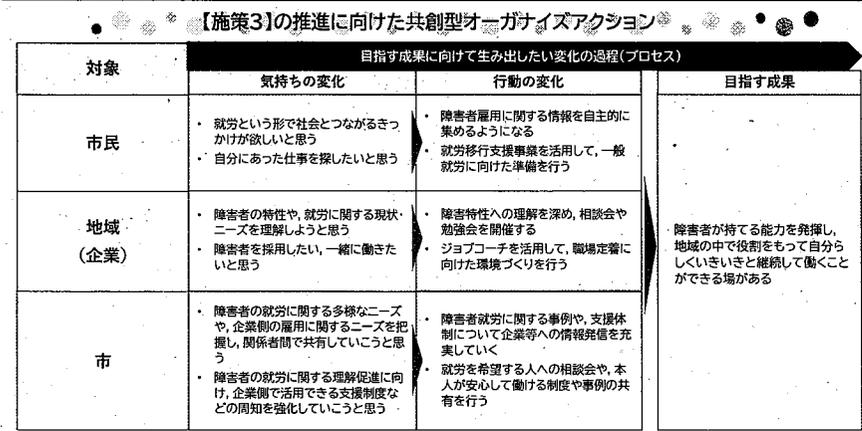
| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|---|---|
| 令和7年度事業実績 | |  | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> 講習会の受講により、防犯活動の心構え等をあらためて確認し、防犯活動への意欲を高めてもらうことで、「地域の防犯パトロールや子どもの見守り活動、防犯情報の広報啓発活動に積極的に取り組もうと思う」ということ。 「地域の犯罪状況や防犯対策の取組などの情報に関心を持つ」ということ。 | | |
| 生じた変化又は課題 | 防犯対策の講習を聞き、自宅でもできる防犯対策を実施したいと思う方が増えた。町会等の中で、講習で聞いたことを共有したいと思う方が増えた。防犯指導員の人数不足により積極的な活動が難しいという声があり、今後どのように増やしていくかが課題である。 | | |
| 今後の取組の方向性 | 講習会を通じて、地域の防犯ボランティア活動を進める防犯指導員の意欲が高まったと考えられる。一方、これだけでは新たな防犯指導員を増やすための直接的な効果は十分ではないと思われる。今後も防犯指導員の活動を周知し、指導員人数が増加することで、地域住民が不安なく安心して暮らすことができるよう取り組む。 | | |



方針4—施策3 居住・就労・移動支援の充実

(基本施策3の方向性)

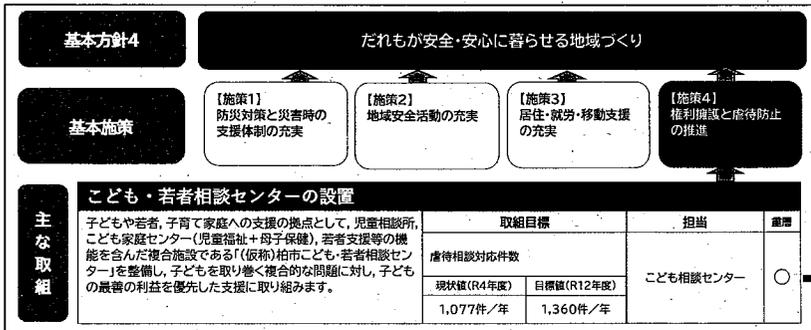
一人ひとりの特性や状況を考慮し、住宅確保要配慮者38への「住まい」の支援や、就労の機会創出及び移動手段の確保など、自立に向けた支援体制の充実を図ります。



| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|-------------------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| 障害者の一般就労及び職場定着の促進 | 69 | 70 | | | | | | 97 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | 市民や企業からの障害者就労に係る相談に対して、必要な情報提供や関係機関の紹介を中心に行い、的確な支援、情報がいきわたるように取り組みを実施した。 | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> 障害者の就労が継続する過程で、障害者を雇用する企業の障害者への理解が深まり、障害者の就労定着が実現していくという長期的な視点での効果を見て事業を実施したこと。 企業などから入る相談内容については、障害者の就労や社会参加につなげていくことを念頭に事業を実施した。障害者雇用を行い、定着することで、企業側も多様なニーズを持つ障害者を雇用し、障害者がいきいきと継続して働くことができる環境を提供することができること。 | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> 柏市ジョブコーチ派遣事業については、障害者の特性を理解しながら企業に伝える難さが現場でも出てきたため、ジョブコーチの派遣だけでは解決できない事例も想定されること。 障害福祉サービスの利用がある障害者本人には、福祉事業所によるサポートがついている半面、雇用経験が少ない企業では、障害者理解、仕事の切り出しなど幅広い部分に不慣れな面が散見されたこと。 | | |
| 今後の取組の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 障害者の就労定着には、一連の活動の初期段階における本人の強み・苦手の整理を丁寧に行い、ミスマッチが起こらないようにすることが重要である。自立支援協議会はたらく部会などを活用し、地域課題解決への取り組みとして、地域の就労移行支援事業所がより丁寧なアセスメントができるよう情報を共有したり、定着支援については、定着支援サービスの利用も含め、柏市ジョブコーチ派遣事業の在り方も検討を進めていく。 既存の取り組みを継続しつつ、企業と本人の間を取り持つような支援力の向上を通じて障害者の職場定着に繋がる支援制度になるような制度運営を目指していく。 | | |



方針4-施策4 権利擁護と虐待防止の推進

(基本施策4の方向性)

住民や関係機関の虐待防止・権利擁護についての理解を促進し、地域での見守りや支援体制を強化することで、虐待防止対策及び虐待の早期発見と迅速な対応を推進します。また、権利擁護支援の理解促進と必要な人が制度を利用できる支援体制づくりによる、利用促進に取り組みます。

【施策4】の推進に向けた共創型オーガナイズアクション

| 対象 | 目指す成果に向けて生み出したい変化の過程(プロセス) | | 目指す成果 |
|----|--|---|--|
| | 気持ちの変化 | 行動の変化 | |
| 市民 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て中の親やその子どもが、辛い時に悩みや困りごとを相談できる場所を知りたいと思う 同じような立場の人や近隣に住む人となつた機会が欲しいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 悩みや困りごとを相談できる機関の情報を見ようになり、相談に行くようになる 子ども向けのイベントや地域の交流の場に足を運ぶようになる | すべての子どもを個人として尊重し、切れ目のない相談支援体制を構築することで、すべての子どもが安心して生活でき、心身ともに健やかに育つことができる |
| 地域 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもや子育て世帯が抱えているニーズや課題を知りたいと思う 子どもや子育てに関する相談窓口を把握しようと思う 地域でできるサポートを考えたいと思う | <ul style="list-style-type: none"> 子どもや子育て世帯に日頃から声掛けを行うようになる 気になる子どもや子育て世帯に気づいた際に相談窓口相談したり、必要な時に相談先を紹介したりする 地域内で子どもを慮慮した交流の場を設けるようになる | |
| 市 | <ul style="list-style-type: none"> 市民の相談窓口に対する認知度や、支援ニーズを調査把握し、関係者間で共有していこうと思う 切れ目のない支援になるように、補的な情報共有や、本人及び関係者からも相談しやすい体制づくりに努めようと思う | <ul style="list-style-type: none"> 市民の相談窓口が、悩みや困りごとを気軽に相談できる場となるように情報発信するとともに、職員の実践スキルの向上を図る それぞれの機能が強みを生かし、役割分担をしながら支援できるように、日頃から互いに相談し協力しあえる関係と体制をつくる | |

| 事業名 | 現状値(R5) | 実績値 | | | | | | 目標値(R12) |
|-----------------|---------|-----|----|----|-----|-----|-----|----------|
| | | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | |
| こども・若者相談センターの設置 | 1,077 | 932 | | | | | | 1,360 |

気持ち・行動の変化を促すためのアプローチ

| 対象 | 市民 | 地域 | 市 |
|-----------|---|----|---|
| 令和7年度事業実績 | <p>令和7年度は、市民・地域・行政それぞれのレベルにおいて、児童虐待防止およびこどもの権利擁護に関する取り組みを段階的に進めてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民向けには、児童虐待防止推進月間やガバメントクラウドファンディングを活用した啓発により、幅広い層に情報発信を行った。 地域においては、要保護児童対策地域協議会を通じて、特に「こどもの権利擁護・意見表明」に焦点を当てた研修を実施し、支援者の意識・理解の向上に取り組んだ。 市としては、児童相談所機能を含む相談支援体制の強化に向け、組織横断的な検討を進めるなど、切れ目のない支援体制構築に向けた基盤整備が進んだ。 | | |
| 当初期待した効果 | <ul style="list-style-type: none"> 啓発活動の多様化 従来の広報に加え、ガバメントクラウドファンディングを活用した取り組みにより、子ども・若者支援に関わる人(寄附者)が増え、児童虐待防止に対する理解の醸成が進むこと 権利擁護に関する理解の深化(地域支援者) 講習会の開催により、こどもの権利擁護への理解が深まり、専門職・関係機関における共通認識の醸成が進むこと 相談支援体制強化に向けた内部連携の進展 (仮称)柏市こども・若者相談センターの開設に向けた検討を通じ、庁内における役割整理や連携の必要性を共有し、今後の実装に向けた基礎づくりが進むこと | | |
| 生じた変化又は課題 | <ul style="list-style-type: none"> 啓発の継続性・浸透度の課題 啓発活動が一定の時期・機会に集中しがちであり、日常的な意識づくりや行動変容につなげるには、継続的かつ重層的な発信が必要であること。 理解の広がり限定性 地域支援者に向けた講習会による効果が確認された一方で、参加者以外の市民・地域住民への理解の波及には課題が残る。特に、こどもの権利擁護や意見表明といった概念をわかりやすく周知していく必要があること。 市民参加型の権利擁護の仕組み不足 権利擁護が「専門職の取り組み」に留まり、市民や地域がどのように関わることが十分に可視化されていないこと。 | | |
| 今後の取組の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 月間等の集中的啓発に加え、学校・地域行事・SNS・公共施設など、生活に沿った情報発信を組み合わせることで、児童虐待防止や権利擁護を「身近なテーマ」として定着させていく。 研修受講者を地域における「つなぎ手」として協力してもらいながら、地域に普及する仕組みを検討し、虐待防止と権利擁護を地域全体で支える体制づくりを進める。 (仮称)柏市こども・若者相談センターを中核として、権利擁護の視点を重視し、子どもの意見表明が尊重される支援策を具体化していく。 | | |

